

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2021年11月12日

【四半期会計期間】 第68期第2四半期(自 2021年7月1日 至 2021年9月30日)

【会社名】 トッパン・フォームズ株式会社

【英訳名】 TOPPAN FORMS CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 坂田 甲一

【本店の所在の場所】 東京都港区東新橋1丁目7番3号

【電話番号】 (03) 6253 - 5720

【事務連絡者氏名】 専務取締役財務本部長 福島 啓太郎

【最寄りの連絡場所】 東京都港区東新橋1丁目7番3号

【電話番号】 (03) 6253 - 5720

【事務連絡者氏名】 専務取締役財務本部長 福島 啓太郎

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第67期 第2四半期 連結累計期間	第68期 第2四半期 連結累計期間	第67期
会計期間		自 2020年4月1日 至 2020年9月30日	自 2021年4月1日 至 2021年9月30日	自 2020年4月1日 至 2021年3月31日
売上高	(百万円)	106,814	107,286	218,231
経常利益	(百万円)	3,907	3,935	9,875
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	(百万円)	897	2,477	4,333
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	1,977	3,815	6,871
純資産額	(百万円)	169,454	175,257	172,991
総資産額	(百万円)	216,230	219,224	224,622
1株当たり四半期(当期) 純利益	(円)	8.09	22.32	39.04
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益	(円)			
自己資本比率	(%)	77.0	78.6	75.7
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	3,599	3,717	16,566
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	5,488	4,891	7,465
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	1,628	1,653	3,193
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(百万円)	45,244	51,980	54,519

回次		第67期 第2四半期 連結会計期間	第68期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 2020年7月1日 至 2020年9月30日	自 2021年7月1日 至 2021年9月30日
1株当たり四半期純利益 又は四半期純損失()	(円)	1.04	5.96

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。
2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載していません。
3. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、当第2四半期連結累計期間及び当第2四半期連結会計期間に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社および当社の関係会社）において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

なお第1四半期連結会計期間において、報告セグメントの区分を変更しております。詳細は、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項（セグメント情報等）セグメント情報」の「 2 . 報告セグメントの変更等に関する事項」をご参照ください。

また主要な関係会社における異動は次のとおりです。

（デジタルビジネス事業）

2021年5月28日付で、持分法適用関連会社であったlivepass株式会社の株式の一部を追加取得したことにより、livepass株式会社を連結子会社にしております。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生または前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 経営成績

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の拡大・長期化が個人消費や企業活動へ大きく影響し、依然として厳しい状況が続きました。感染対策を徹底し、ワクチン接種を促進するなかで、各種政策の効果や海外経済の改善もあって、景気の持ち直しが期待されていますが、先行きは不透明な状況が続いており、今後も国内外の新型コロナウイルス感染症の動向や金融資本市場の変動などの影響を注視する必要があります。世界経済においても、同様に未だ予断を許さない状況にあります。

当社グループを取り巻く環境におきましては、新型コロナウイルス感染症の拡大による消費活動および企業活動の停滞の長期化、それに伴う企業の経費削減の徹底や需要構造の変化による紙媒体の減少、人件費の上昇など、依然として厳しい状況が続いております。一方で、企業や行政機関のデジタルトランスフォーメーション（DX）の推進や非対面型ビジネスモデルの広がり、ワークスタイル変革などによる需要が一層高まりました。加えて各種の経済対策関連施策や新型コロナウイルスのワクチン接種など社会情勢に伴う案件も顕在化しています。

また働き方の多様化によるテレワークの拡大に伴う情報漏えいリスクや標的型攻撃などのサイバー攻撃による脅威が増大するなか、情報セキュリティ対策の重要性が高まりました。

このような状況のなか、当社グループは持続的な成長の実現に向け、従来型のソリューションと最先端のデジタル技術を掛け合わせることで、独自性の高い新たな価値を提供する「デジタルハイブリッド」を軸とした成長戦略を実行し、市場におけるプレゼンスをさらに確固たるものとするとともに、グループ全体の構造改革およびIT基盤の整備、社会課題解決を起点とした新事業の創出に取り組みました。

また事業戦略方針の明確化や選択と集中による経営資源配分の最適化、さらなる収益成長の実現に向け、事業セグメントを「デジタルビジネス事業」「インフォメーション・プロセス事業」「プロダクトソリューション事業」「グローバル事業」の4つに再定義しました。

今後の成長領域の中核として位置付けるデジタルソリューション分野では、AIやパーソナル動画などを活用したコミュニケーション分野に強みを持つLivepass株式会社を連結子会社化し、共通手続きプラットフォーム「AIRPOST（エアポスト）」やハイブリッド配信ソリューション「EngagePlus（エンゲージプラス）」などの強化を図りました。さらに行政のDXを支援するデジタル・ガバメント関連の取り組みへも注力しました。

これらの取り組みにより、経済対策関連の一部縮小やビジネスフォーム（BF）およびその他印刷物の需要減、グローバル事業における減収、新型コロナウイルス感染症が各事業に与えたマイナス影響などはあったものの、ワクチン接種関連などのデータ・プリント・サービス（DPS）やBPOの拡販、デジタルソリューションおよびペイメントサービスの拡大、イベントや感染症対策に関連するIoTおよびサプライ・開発商品の取り込みに加え、構造改革や生産現場におけるコスト削減の影響などにより、売上高は前年並み、営業利益における収益性は前年をわずかに上回りました。

以上の結果、前年同四半期に比べ売上高は0.4%増の1,072億円、営業利益は1.0%増の40億円、経常利益は0.7%増の39億円となりました。また持分法適用会社だったLivepass社の株式を追加取得したことによる特別利益や前期に計上した製造拠点再編に伴う減損損失がなくなったことなどの影響もあり、親会社株主に帰属する四半期純利益は175.9%増の24億円となりました。

セグメント別の業績を示すと、次のとおりであります。

なお第1四半期連結会計期間より、報告セグメントとして記載する事業セグメントを変更しており、当第2四半期連結累計期間の比較・分析は、変更後の区分に基づいております。

<u>デジタルビジネス事業</u>	売上高	177億円（対前年同四半期	2.2%増）
	セグメント利益（営業利益）	10億円（対前年同四半期	69.1%増）

デジタルビジネス事業のうちデジタルソリューションでは、保険業界など金融機関向けサービスの拡販や製造業向け開発案件の取り込みなどが進み、前年から大幅な増収となりました。

ペイメントサービスは、飲料自動販売機やタクシーなどを中心に決済プラットフォーム「シンカクラウド」の利用料収入が拡大したことにより、前年から大幅な増収となりました。

システム運用管理サービスでは、一部案件の契約満了や縮小などの影響により、前年から減収となりました。

I o Tでは、医薬品関連の一時的な反動減や店舗での商品管理用I Cラベルの発行数減少などがありましたが、新型コロナウイルス感染症関連や物流管理用のI Cタグの取り込みにより、前年から大幅な増収となりました。

カードでは、入退室管理I Cカードやセキュリティ関連機器などの拡販はありましたが、新型コロナウイルス感染症による会員カード、ポイントカードの継続的な発行数減少により、前年からわずかに減収となりました。

以上の結果、デジタルビジネス事業全体の売上高は増収となりました。

なお「シンカクラウド」の利用料収入の増加やシステム運用管理サービスにおける販管費の減少、I o T・カードの生産性向上によるコスト削減などにより、営業利益における収益性は大幅に向上しました。

インフォメーション・プロセス事業

	売上高	728億円（対前年同四半期	1.2%増）
	セグメント利益（営業利益）	59億円（対前年同四半期	2.3%減）

インフォメーション・プロセス事業のうちD P Sでは、電子化に伴う減少や経済対策関連の一部縮小などがありましたが、ワクチン接種関連通知物の取り込みや、金融機関・通信販売を中心としたダイレクトメール（DM）需要の回復などにより、前年並みとなりました。

B P Oでは、ワクチン接種や経済対策関連案件の取り込みに加え、行政機関を中心としたアウトソーシング需要の拡大により、前年から大幅な増収となりました。

B Fは、ワクチン接種関連帳票の取り込みや巣ごもり需要拡大に伴う運輸ラベルの増加はあったものの、金融機関を中心とした非対面手続きの促進などによる各種窓口帳票の減少や電子化に伴う数量減などの影響により、前年から減収となりました。

また各種パンフレットやカタログなど、その他の印刷物も大幅な減収となりました。

以上の結果、インフォメーション・プロセス事業全体の売上高はわずかに増収となりました。

また構造改革による生産性の向上などはありませんでしたが、I T費用の増加や経済対策関連の一部縮小などの影響により、営業利益における収益性は低下しました。

プロダクトソリューション事業

	売上高	117億円（対前年同四半期	0.6%減）
	セグメント利益（営業利益）	0億円（対前年同四半期	）

プロダクトソリューション事業では、イベントや感染症対策に関連するサプライ・開発商品の拡販、自治体向け機器の需要取り込みなどがありましたが、サプライにおけるスポット案件の反動減により、前年並みとなりました。

なおサプライ・開発商品の収益性の向上や納入運賃の削減などにより、営業利益における収益性は改善しました。

グローバル事業	売上高	49億円（対前年同四半期	12.3%減）
	セグメント利益（営業利益）	0億円（対前年同四半期	84.5%減）

グローバル事業では、新型コロナウイルス感染症の影響や価格競争の激化に加え、タイにおける政府系IDカード案件の期ずれ影響、タイ・香港での金融系カード関連の数量減、デジタル化の進展に伴う香港・シンガポールでのBF・DPS関連の受注減などの影響により、大幅な減収となりました。

なお香港グループの収益改善はありましたが、売上減に伴う利益減の影響により、営業利益における収益性は大幅に低下しました。

(2) 財政状態

当第2四半期連結会計期間末の財政状態は、前連結会計年度末に比べ資産合計は53億円減の2,192億円、負債合計は76億円減の439億円、純資産合計は22億円増の1,752億円となりました。この結果、自己資本比率は78.6%となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ25億円減少し、519億円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間における営業活動で得られた資金は、前年同四半期に比べ1億円増加し37億円となりました。これは主に収入では税金等調整前四半期純利益39億円、減価償却費36億円、支出においては、仕入債務の減少額32億円によるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間における投資活動の結果支出した資金は、前年同四半期に比べ5億円減少し48億円となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出33億円、無形固定資産の取得による支出10億円によるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間における財務活動の結果支出した資金は、16億円となりました。これは主に配当金の支払額13億円によるものであります。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は842百万円であります。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	400,000,000
計	400,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2021年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (2021年11月12日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	115,000,000	115,000,000	東京証券取引所 (市場第一部)	完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社において標準となる株式。単元株式数は100株であります。
計	115,000,000	115,000,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2021年7月1日～ 2021年9月30日		115,000,000		11,750		9,270

(5) 【大株主の状況】

2021年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の総数 に対する所有 株式数の割合 (%)
凸版印刷(株)	東京都台東区台東 1 - 5 - 1	67,419	60.74
(株)日本カストディ銀行	東京都中央区晴海 1 - 8 - 12	7,601	6.85
日本マスタートラスト信託銀行(株)	東京都港区浜松町 2 - 11 - 3	6,828	6.15
トップランフォームズグループ従業員 持株会	東京都港区東新橋 1 - 7 - 3	1,995	1.80
MSIP CLIENT SECURITIES (常任代理人 モルガン・スタンレー MUFG証券(株))	25 Cabot Square, Canary Wharf, London E14 4QA, U.K. (東京都千代田区大手町 1 - 9 - 7)	1,954	1.76
BNP PARIBAS SECURITIES SERVICES LUXEMBOURG/JASDEC/JANUS HENDERSON HORIZON FUND (常任代理人 香港上海銀行東京支店)	33 RUE DE GASPERICH, L-5826 HOWALD- HESPERANGE, LUXEMBOURG (東京都中央区日本橋 3 - 11 - 1)	1,520	1.37
SSBTC CLIENT OMNIBUS ACCOUNT (常任代理人 香港上海銀行東京支店)	ONE LINCOLN STREET, BOSTON MA USA 02111 (東京都中央区日本橋 3 - 11 - 1)	984	0.89
UBS AG LONDON ASIA EQUITIES (常任代理人 シティバンク、エヌ・エ イ東京支店)	5 BROADGATE LONDON EC2M 2QS UK (東京都新宿区新宿 6 - 27 - 30)	802	0.72
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO (常任代理人 シティバンク、エヌ・エ イ東京支店)	PALISADES WEST 6300,BEE CAVE ROAD BUILDING ONE AUSTIN TX 78746 US (東京都新宿区新宿 6 - 27 - 30)	782	0.70
第一生命保険(株)	東京都千代田区有楽町 1 - 13 - 1	708	0.64
計	-	90,598	81.62

(注) 上記所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は次のとおりであります。

(株)日本カストディ銀行 7,601千株

日本マスタートラスト信託銀行(株) 6,828千株

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2021年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 4,003,600		権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 110,990,200	1,109,902	同上
単元未満株式	普通株式 6,200		
発行済株式総数	115,000,000		
総株主の議決権		1,109,902	

(注) 「単元未満株式」の欄には、自己株式が44株含まれております。

【自己株式等】

2021年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) トッパン・フォームズ(株)	東京都港区東新橋 1 - 7 - 3	4,003,600		4,003,600	3.48
計		4,003,600		4,003,600	3.48

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(2007年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2021年7月1日から2021年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2021年4月1日から2021年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、PwCあらた有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	54,519	51,980
受取手形及び売掛金	38,563	-
受取手形、売掛金及び契約資産	-	35,189
有価証券	500	400
商品及び製品	8,392	8,265
仕掛品	1,113	1,132
原材料及び貯蔵品	2,567	2,298
前払費用	2,073	2,524
その他	3,733	3,404
貸倒引当金	97	99
流動資産合計	111,368	105,096
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	79,757	79,863
減価償却累計額及び減損損失累計額	39,169	40,264
建物及び構築物（純額）	40,588	39,599
機械装置及び運搬具	73,577	73,121
減価償却累計額及び減損損失累計額	63,303	62,884
機械装置及び運搬具（純額）	10,273	10,236
工具、器具及び備品	16,703	17,055
減価償却累計額及び減損損失累計額	14,087	14,343
工具、器具及び備品（純額）	2,615	2,711
土地	23,848	23,850
リース資産	2,150	2,275
減価償却累計額	971	1,212
リース資産（純額）	1,178	1,063
建設仮勘定	615	833
有形固定資産合計	79,120	78,293
無形固定資産		
のれん	101	1,014
その他	4,783	5,221
無形固定資産合計	4,884	6,236
投資その他の資産		
投資有価証券	21,660	22,465
繰延税金資産	2,830	2,288
その他	4,878	4,963
貸倒引当金	120	119
投資その他の資産合計	29,248	29,597
固定資産合計	113,253	114,127
資産合計	224,622	219,224

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	14,286	12,327
電子記録債務	11,895	10,656
短期借入金	117	122
未払費用	5,473	4,949
未払法人税等	1,728	636
未払消費税等	2,905	1,445
賞与引当金	4,983	4,503
役員賞与引当金	28	16
独占禁止法関連損失引当金	-	196
設備関係支払手形	301	297
営業外電子記録債務	2,105	1,074
資産除去債務	185	153
その他	4,930	5,016
流動負債合計	48,941	41,396
固定負債		
繰延税金負債	130	288
役員退職慰労引当金	177	148
退職給付に係る負債	562	384
資産除去債務	977	1,015
その他	842	731
固定負債合計	2,689	2,570
負債合計	51,630	43,966
純資産の部		
株主資本		
資本金	11,750	11,750
資本剰余金	9,220	9,220
利益剰余金	151,685	152,603
自己株式	4,916	4,916
株主資本合計	167,739	168,656
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,900	3,638
為替換算調整勘定	203	626
退職給付に係る調整累計額	798	684
その他の包括利益累計額合計	2,305	3,580
非支配株主持分	2,946	3,020
純資産合計	172,991	175,257
負債純資産合計	224,622	219,224

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)
売上高	106,814	107,286
売上原価	82,151	82,327
売上総利益	24,662	24,958
販売費及び一般管理費	1 20,627	1 20,885
営業利益	4,034	4,073
営業外収益		
受取利息	37	50
受取配当金	241	199
その他	162	122
営業外収益合計	441	372
営業外費用		
為替差損	11	6
賃貸費用	14	16
持分法による投資損失	84	98
未稼働設備関連費用	169	-
休止設備関連費用	138	43
新型コロナウイルス関連費用	108	-
未使用賃借料	-	295
その他	43	50
営業外費用合計	569	511
経常利益	3,907	3,935
特別利益		
投資有価証券売却益	44	1
段階取得に係る差益	-	500
その他	6	2
特別利益合計	50	503
特別損失		
固定資産除却損	39	41
投資有価証券評価損	346	185
減損損失	1,396	9
事業構造改革費用	252	-
独占禁止法関連損失引当金繰入額	-	196
固定資産処分損	2	74
その他	13	4
特別損失合計	2,052	512
税金等調整前四半期純利益	1,905	3,926
法人税、住民税及び事業税	1,277	1,009
法人税等調整額	342	395
法人税等合計	935	1,405
四半期純利益	970	2,521
非支配株主に帰属する四半期純利益	72	44
親会社株主に帰属する四半期純利益	897	2,477

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)
四半期純利益	970	2,521
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,213	739
為替換算調整勘定	296	234
退職給付に係る調整額	116	113
持分法適用会社に対する持分相当額	26	207
その他の包括利益合計	1,006	1,294
四半期包括利益	1,977	3,815
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,907	3,752
非支配株主に係る四半期包括利益	70	63

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,905	3,926
減価償却費	3,699	3,628
減損損失	1,396	9
のれん償却額	52	104
固定資産除却損	39	41
貸倒引当金の増減額(は減少)	22	1
投資有価証券売却損益(は益)	44	1
投資有価証券評価損益(は益)	346	185
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	86	16
役員賞与引当金の増減額(は減少)	11	12
賞与引当金の増減額(は減少)	407	489
受取利息及び受取配当金	279	250
持分法による投資損益(は益)	84	98
売上債権の増減額(は増加)	1,475	3,538
棚卸資産の増減額(は増加)	1,057	438
仕入債務の増減額(は減少)	2,680	3,245
未払又は未収消費税等の増減額	1,558	1,468
独占禁止法関連損失引当金の増減額(は減少)	-	196
その他	1,112	974
小計	4,904	5,710
利息及び配当金の受取額	277	248
利息の支払額	19	17
法人税等の支払額又は還付額(は支払)	1,563	2,224
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,599	3,717
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	3,402	3,357
有形固定資産の売却による収入	2	8
無形固定資産の取得による支出	1,119	1,058
投資有価証券の取得による支出	116	638
投資有価証券の売却及び償還による収入	571	725
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出		423
その他の支出	1,486	233
その他の収入	62	84
投資活動によるキャッシュ・フロー	5,488	4,891
財務活動によるキャッシュ・フロー		
リース債務の返済による支出	229	247
配当金の支払額	1,387	1,387
非支配株主への配当金の支払額	11	18
その他	0	
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,628	1,653
現金及び現金同等物に係る換算差額	46	288
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	3,563	2,539
現金及び現金同等物の期首残高	48,808	54,519
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 45,244	1 51,980

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第2四半期連結累計期間
(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

連結の範囲の重要な変更

第1四半期連結会計期間において、持分法適用関連会社であったlivepass株式会社の株式の一部を追加取得したことにより、livepass株式会社を連結の範囲に含めております。

持分法適用の範囲の重要な変更

持分法適用関連会社であったlivepass株式会社の株式の一部を追加取得し、連結の範囲に含めたことにより、第1四半期連結会計期間より、livepass株式会社を持分法適用の範囲から除外しております。なお第1四半期連結会計期間までは持分法適用関連会社としての業績が「持分法による投資損失」に含まれております。

(会計方針の変更等)

当第2四半期連結累計期間
(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。これにより、当社及び一部の国内連結子会社は、従来国内販売においては主に出荷時に収益を認識しておりましたが、顧客に製品が到着した時点で収益を認識することとしております。また一部保守サービスについて一時点で収益を認識しておりましたが、一定の期間にわたって認識することとしております。

加えて、請求済未出荷契約について、取引価格の一部を残存履行義務(配送及び保管サービスに係る義務)に配分して収益を認識することとしております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。ただし、収益認識会計基準第86項に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに従前の取扱いに従ってほとんどすべての収益の額を認識した契約に、新たな会計方針を遡及適用しておりません。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は42百万円増加し、売上原価は43百万円増加し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ0百万円減少しております。また利益剰余金の当期首残高は172百万円減少しております。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「受取手形及び売掛金」は、第1四半期連結会計期間より「受取手形、売掛金及び契約資産」に含めて表示することとしました。なお収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第2四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

当第2四半期連結累計期間
(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

(新型コロナウイルス感染症拡大に伴う会計上の見積り)

当社グループでは、繰延税金資産の回収可能性や固定資産の減損会計等の会計上の見積りに関して、新型コロナウイルス感染症は当連結会計年度に渡って引き続き消費動向や企業活動へ影響を及ぼすとの仮定のもと、それに伴う事業環境の変化を反映した将来予測に基づき見積り及び判断を行っております。なお新型コロナウイルス感染症の広がりや収束時期等の見積りは不確実性を伴うため、実際の結果はこれらの見積りと異なる場合があります。

(連結納税制度の適用)

当社及び一部の国内連結子会社は第1四半期連結会計期間から連結納税制度を適用しております。

(連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用)

当社及び一部の国内連結子会社は、「所得税法等の一部を改正する法律」(2020年法律第8号)において創設されたグループ通算制度への移行及びグループ通算制度への移行にあわせて単体納税制度の見直しが行われた項目については、「連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用に関する取扱い」(実務対応報告第39号 2020年3月31日)第3項の取扱いにより、「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2018年2月16日)第44項の定めを適用せず、繰延税金資産及び繰延税金負債の額について、改正前の税法の規定に基づいております。

(公正取引委員会からの排除措置命令及び課徴金納付命令について)

当社は、2019年10月8日、日本年金機構が発注する帳票の作成及び発送準備業務に関して、独占禁止法違反の疑いがあるとして、公正取引委員会の立ち入り検査を受けておりましたが、2021年11月4日に同委員会より独占禁止法に基づく排除措置命令書(案)及び課徴金納付命令書(案)に関する意見聴取通知書を受領しております。

本件通知の内容を精査・確認するとともに、同委員会より証拠等に関する説明を受けたくうえで、今後の対応を慎重に検討してまいります。

なお当四半期において、196百万円を独占禁止法関連損失引当金繰入額として特別損失に計上しております。

(四半期連結損益計算書関係)

- 1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
役員報酬・従業員給与諸手当	6,900百万円	7,130百万円
賞与引当金繰入額	1,356	1,456
退職給付費用	350	427
役員賞与引当金繰入額	17	22
役員退職慰労引当金繰入額	8	14
貸倒引当金繰入額	24	0

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

- 1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
現金及び預金	44,244百万円	51,980百万円
有価証券	999	
現金及び現金同等物	45,244	51,980

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年6月26日 定時株主総会	普通株式	1,387	12.5	2020年3月31日	2020年6月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年10月30日 取締役会	普通株式	1,387	12.5	2020年9月30日	2020年12月4日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年6月29日 定時株主総会	普通株式	1,387	12.5	2021年3月31日	2021年6月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年10月29日 取締役会	普通株式	1,387	12.5	2021年9月30日	2021年12月6日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	デジタル ビジネス 事業	インフォメー ション・プロセ ス 事業	プロダクト ソリューション 事業	グローバル 事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	17,326	72,040	11,849	5,597	106,814		106,814
セグメント間の内部 売上高又は振替高							
計	17,326	72,040	11,849	5,597	106,814		106,814
セグメント利益又は 損失()	629	6,108	57	189	6,869	2,834	4,034

- (注) 1. セグメント利益又は損失()の調整額 2,834百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用 2,834百万円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
 2. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	デジタル ビジネス 事業	インフォメー ション・プロセ ス 事業	プロダクト ソリューション 事業	グローバル 事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	17,714	72,884	11,779	4,907	107,286		107,286
セグメント間の内部 売上高又は振替高							
計	17,714	72,884	11,779	4,907	107,286		107,286
セグメント利益	1,063	5,969	5	29	7,068	2,995	4,073

- (注) 1. セグメント利益の調整額 2,995百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用 2,995百万円
 あります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
 2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(セグメント区分の変更)

第1四半期連結会計期間より報告セグメントのうち、従来の「データ&ドキュメント事業」、「ITイノベーション事業」および「ビジネスプロダクト事業」を「デジタルビジネス事業」、「インフォメーション・プロセス事業」および「プロダクトソリューション事業」に変更しております。この変更は、事業戦略方針の明確化や選択と集中による経営資源配分の最適化、さらなる収益成長の実現を目的とし経営管理区分を見直したことによるものであります。

なお前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメント区分に基づき作成したものを記載しております。

(収益認識会計基準等の適用)

(会計方針の変更)に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益の算定方法を同様に変更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第2四半期連結累計期間の「デジタルビジネス事業」の売上高は44百万円増加、セグメント利益は7百万円増加し、「インフォメーション・プロセス事業」の売上高は21百万円増加、セグメント利益は6百万円増加し、「プロダクトソリューション事業」の売上高は23百万円減少、セグメント利益は14百万円減少しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「デジタルビジネス事業」セグメントにおいて、livepass株式会社の株式を追加取得し連結子会社としたことにより、1,011百万円のものれんが発生しております。

なおのれんは取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算定された金額であります。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント				合計
	デジタル ビジネス 事業	インフォメーシ ョン・プロセス 事業	プロダクト ソリューション 事業	グローバル 事業	
一時点で移転される財	4,416	59,269	10,524	4,907	79,118
一定の期間にわたり移転される 財及びサービス	13,297	13,615	1,255		28,167
顧客との契約から生じる収益	17,714	72,884	11,779	4,907	107,286
その他の収益					
外部顧客への売上高	17,714	72,884	11,779	4,907	107,286

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
1株当たり四半期純利益	8円9銭	22円32銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円)	897	2,477
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(百万円)	897	2,477
普通株式の期中平均株式数(千株)	110,996	110,996

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

当社は、2021年11月10日開催の取締役会において、当社の支配株主（親会社）である凸版印刷株式会社（以下「公開買付者」といいます。）が持株会社体制移行を見据えて実施する、当社普通株式（以下「当社株式」といいます。）に対する公開買付け（以下「本公開買付け」という。）に関して、賛同の意見を表明するとともに、当社の株主の皆様が本公開買付けに応募することを推奨する旨の決議をいたしました。

なお当社の上記取締役会決議は、公開買付者が本公開買付け及びその後の一連の手続を経て、当社を完全子会社化することを企図していること及び当社株式が上場廃止となる予定であることを前提として行われたものです。

1. 公開買付者の概要

(1) 名称	凸版印刷株式会社	
(2) 所在地	東京都台東区台東一丁目5番1号	
(3) 代表者の役職・氏名	代表取締役社長 磨 秀晴	
(4) 事業内容	情報コミュニケーション事業分野、生活・産業事業分野、エレクトロニクス事業分野等	
(5) 資本金	104,986百万円（2021年9月30日現在）	
(6) 設立年月日	1908年6月4日	
(7) 大株主及び持株比率 （2021年9月30日現在）	日本マスタートラスト信託銀行株式会社信託口	14.95%
	株式会社日本カストディ銀行信託口	5.04%
	日本生命保険相互会社（常任代理人 日本マスタートラスト信託銀行株式会社）	4.45%
	東洋インキSCホールディングス株式会社	2.81%
	第一生命保険株式会社（常任代理人 株式会社日本カストディ銀行）	2.71%
	従業員持株会	2.10%
	株式会社講談社	1.99%
	凸版印刷取引先持株会	1.75%
	SSBTC CLIENT OMNIBUS ACCOUNT（常任代理人 香港上海銀行東京支店）	1.35%
	STATE STREET BANK WEST CLIENT-TREATY 505234（常任代理人 株式会社みずほ銀行決済営業部）	1.32%
(8) 当社と公開買付者の関係		
資本関係	公開買付者は、2021年11月10日時点において当社株式67,419,000株（所有割合（注）：60.74%）を所有し、当社を連結子会社としております。	
人的関係	2021年11月10日時点において、当社の取締役である金子眞吾氏は、公開買付者の代表取締役会長を兼任しております。また、当社取締役12名のうち、伊東厚氏、坂田甲一氏、福島啓太郎氏、金子眞吾氏、及び井上英雄氏は公開買付者の出身者であります。 上記の他、公開買付者の従業員2名が当社に出向しております。なお、当社から公開買付者に出向している従業員はおりません。	
取引関係	当社は公開買付者との間で、印刷物、材料及び商品に関する販売・購入等の取引があります。	
関連当事者への該当状況	公開買付者は当社の親会社であり、公開買付者と当社は相互に関連当事者に該当します。	

(注) 「所有割合」とは、当社が2021年10月29日に公表した「2022年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）」に記載された2021年9月30日現在の当社の発行済株式総数（115,000,000株）から、同日現在の当社が所有する自己株式数（4,003,644株）を控除した株式数（110,996,356株）に占める割合（小数点以下第三位を四捨五入しております。）をいいます。

2. 本公開買付けの概要

(1) 買付けをする株券等の種類

普通株式

(2) 買付けの価格

普通株式 1 株につき、金1,550円

(3) 買付け予定の株式等の数

買付け予定数(株)	買付け予定数の下限(株)	買付け予定数の上限(株)
43,577,356	6,578,600	

(4) 買付けの期間

2021年11月11日から2021年12月23日まで(30営業日)

(5) 公開買付開始公告日

2021年11月11日

2 【その他】

(中間配当)

第68期(2021年4月1日から2022年3月31日まで)中間配当については、2021年10月29日開催の取締役会において、2021年9月30日の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額	1,387百万円
1株当たりの金額	12円50銭
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	2021年12月6日

(期末配当)

当社は、2021年11月10日開催の取締役会において、公開買付者による当社の普通株式に対する本公開買付けが成立することを条件に、普通株式について2022年3月期の配当予想を修正し、期末配当を行わないことを決議いたしました。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2021年11月12日

トップパン・フォームズ株式会社
取締役会 御 中

P w C あらた有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 高 濱 滋

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 千 葉 達 哉

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 八 木 正 憲

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているトップパン・フォームズ株式会社の2021年4月1日から2022年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2021年7月1日から2021年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2021年4月1日から2021年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、トップパン・フォームズ株式会社及び連結子会社の2021年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

強調事項

重要な後発事象に記載されたとおり、会社は、2021年11月10日開催の取締役会において、凸版印刷株式会社による会社の普通株式に対する公開買付けについて賛同の意見を表明するとともに、会社の株主に対して本公開買付けへの応募を推奨することを決議している。

当該事項は、当監査法人の結論に影響を及ぼすものではない。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。